なにわたいむず

No.104

contents

01 news／管理者うるしまのヨモヤマバナシ

02 お母さんの日々あれこれ

03 プラマエダ／アトリエナニワ

04 Case Book

06 ジムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ

07 スタッフ紹介

新しい公用車が来ました！

なにわの里に新しい車がやってまいりました。日産　キャラバンであります。今回、社会福祉法人大阪府共同募金会様より、ＮＨＫ歳末たすけあい助成金（助成額１８４万円）を頂くことで購入することができました。

１６年頑張ってくれた先代のキャラバン、銀色だったのでスタッフからは「銀キャラ」と呼ばれていました。今回、白色なので「白キャラ」、これから利用者さん達を載せて、頑張ってくれることと思います！（小池）

NEWS

お楽しみ企画、やっています！

６月に初めてのお楽しみ企画、クレープ屋さんの移動販売車に来てもらいました。入所・グループホームの利用者さんは外泊や外出ができない状況が続いています。生活の楽しみが減ってしまっている中、少しでも「楽しかったな！」と思える日を過ごして頂けたら、という主旨でこの企画を行っています。このお楽しみ企画の費用は、なにわの里と歩む会からのご寄付を充てさせて頂いております。心から御礼申し上げます。

第２弾は９月「かき氷、フランクフルトを食べよう！」、そして第３弾は１０月「豪華プリンを食べよう！」でした。みなさん、とても嬉しそうなご様子でした。そんな利用者さんの様子を見て、僕たちスタッフも元気を頂けた思いです。（小池）

管理者コラム

模索が続く日々です…

皆さん、第５波の感染爆発の際は大丈夫でしたでしょうか。自分の回りでは影響は少なかったのですが、報道を見ながら恐怖を感じる毎日でした。この間に、全国でワクチン接種を終えているはずの１００を超える高齢者施設でクラスターが発生したそうで、ある高齢者施設では、入院ができないため施設内で死亡者も出たということが詳細に報道されていました。一方で、これほどの感染が広がったにも関わらず、高齢者の感染者数や死亡者数は以前に比べ大幅に減少し、ワクチン接種の効果だと言われています。これらの事実を踏まえ、法人としてどのように進んでいけばよいか、本当に悩ましい毎日です。利用者さんの生命と日常の生活、どちらも大切にする方法の模索が続きます。

そういった中、先日法人の理事会で、感染予防設備の整備や利用者さん・スタッフの気持ちが晴れるような取り組みを重視した補正予算が可決されました。具体的には、スタッフルームのレイアウト変更や利用者さんの健康・娯楽設備の強化、スタッフの豪華オンライン忘年会の実施などです。ウィズコロナ体制の模索が続きます。

先日、法人でお世話になっている篁一誠先生が研修でおっしゃったことがとても印象に残ったのでご紹介します。研修では『変化』がテーマだったのですが、篁先生は「自閉症の方は毎日違う発見をしている人たち（観察力・記憶力が高く、日々の変化に気付くことができる人たち）です」とおっしゃいました。一般的には自閉症の方はこだわりが強いと言われます。ですが、それは“変化に気付く能力に長けている”ことであり、聞いた瞬間私は、「相手を敬った、なんて素敵な視点だろう」と感動しました。コロナのこともあり、人とのかかわりが希薄になりがちですが、相手を認め、尊重したかかわりができる、そんな自分や法人でありたいと思う今日この頃です。

ヨモヤマバナシ

お母さんの日々あれこれ

お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

家族でゲーム大会！

在宅中🏠、次男は任天堂スイッチ🎮などのテレビゲームをしてよく遊ぶのですが、おうち時間が長くなりテレビゲームばかりで遊ぶのも良くないと思うので、時々、それ以外の事をさせるようにしています。そういう時は独りでレゴで遊んだりもしますが、我が家のオススメはトランプ♢♡♠♣です。

よくするゲームは『スピード』・『神経衰弱』・『ざぶとん』で、最近、『大富豪』などの少し難しいゲームも出来るようになってきました。時々、お父さんも参加して遊ぶので、長男、三男も含め家族全員で一緒にトランプをする事もあります。次男は負けず嫌いで、負ければ「もう一回やろう！」と言ってくるし、親二人も手を抜かずにゲームをするので、トランプをする時は家族全員で白熱した勝負を繰り広げています(^0^)／。

by T

担当者コメント欄

T さん：外出制限がある時に、ずっとお子さんに付きっきりというのは難しいかもしれませんが、時々は家族で一緒に何かする時間を作るのには良い機会かもしれませんね。　（高木）

F さん：お子さんが嫌な思いをしないように配慮されていたのだなと感じました。コロナウイルスのことが続きますが、お互いストレスを溜めない為に大事だと思いました。（飛瀬）

今回のテーマ

おうちで出来る
おススメの活動

得意なことを活かして

おすすめの活動というわけではないのですが、本人の得意なことをするようにしていましたね。

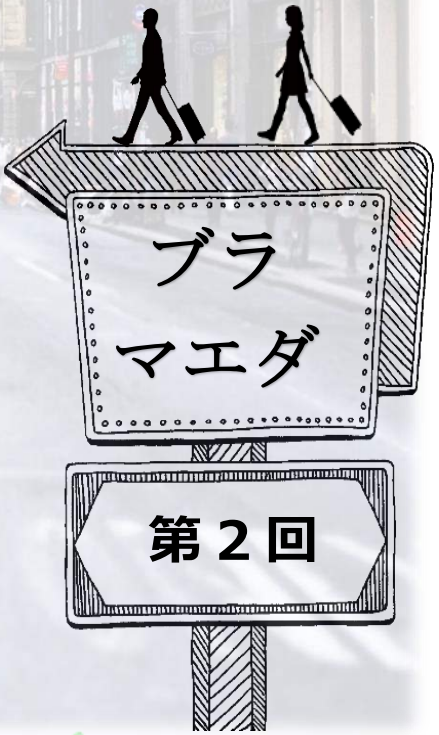
今は成人の施設を利用していますが、子どもの頃は、手先を使うことが得意だったので、絵を描いたり貼り絵をしていました。また、目で理解するのが得意なので、料理のお手伝いで、見本を見せてから野菜を切ってもらっていました。見本通りの長さに切ることは、他の兄弟よりとても上手でした😊

ビデオやテレビゲームなど、途中で終わりが分からないものはおすすめではないです。本人も終わりが分からない中、止めたい気持ちとの葛藤があったと思います。そういう意味でも、絵を描く等終わりが分かりやすく、かつ時間が長すぎない活動が良いと思います。

by F

理事長マエダが、ブラブラするコーナーです

「知的障害・自閉症支援って、すごい仕事」の巻



はじまりました「ブラマエダ」。第二回目は、法人の第三者委員でもある、城南短期大学の山本永人先生の研究室にブラブラお邪魔しました。

マエダ「こんにちは。コロナでご無沙汰してしまいましたが、教育現場の現状は如何でしょうか?」

先生「だいぶ落ち着いてきましたが、やはりオンライン対応の限界も感じました。現在、様々な家庭環境の中で大変な思いをして通学している学生が多く、対面の大切さを痛感しています」

マエダ「たしかに反動的な部分ありますね。福祉現場で働く卒業生からの相談とかもありますか?」

先生「ありますね。やはり人間関係で悩んでいるケースが多いです。学校経営もそうですが、福祉も効率重視が進み余裕がないと感じます。働き手も認め合える場を求めていると感じます」

マエダ「私たち知的障害児者・自閉症支援の現場について感じておられることはありますか?」

先生「昔、現場で働いていた頃を振り返ると、利用者さんに『すくわれた』ことがたくさんあるんですね。自分の居場所をつくっていただいた、自分の支援に付き合っていただいた、という感じです。どっちが支援者やねん、っていう話ですが。入口はそんなもんかもしれません(笑)」

「世の中からみれば、『ただの飛びはねてるお兄さん』で完結する話を、その背景、要因を分析して理解しようと考え支援すること。こんな『すごい仕事』ないですよね。なにわの里さんはそういう支援を先頭に立って進めておられます。皆さんもっと、誇りをもってほしいと思います」

先生とお話すると、いつもホッとするのですが、支援者が自分たちの実践を認め合う場というのが大切なんだろうな~と思います。ありがとうございました~(三時間を超コンパクトにまとめました)

アトリエナニク

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

【ツールの説明】

階段昇降を行う回数を示すために作成したツールです。利用者さんが好んでいるキャラクターのカードの枚数で回数を示しています。

【ツールのメリット】

興味関心があるものを活用することで、ツールに注目できるようになること、活動自体に楽しめる要素を入れることができることです！

(浅野)

atelier naniwa

Case book

なにわの里　支援の実践紹介

子どもから大人への一貫した支援

通所支援 2 係　　越智　友彦

【はじめに】

子どもから大人への一貫した支援の事例として、A さんの事例を紹介します。

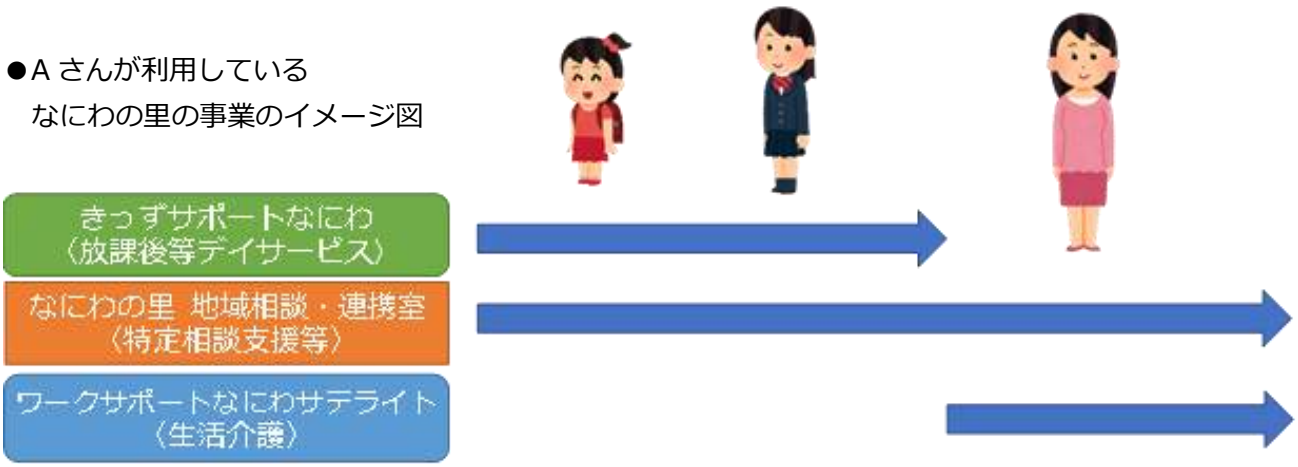
A さんは 10 代後半の女性で、知的障害（療育手帳 A 判定）を伴う自閉スペクトラム症と診断されています。調子が良くない時は自分の手の甲を噛んだり、物投げ、泣くことなどがあります。

9 歳（小学 4 年）から当法人の放課後等デイサービス（きっずサポートなにわ）を利用し、翌年から同じく当法人の相談事業（なにわの里地域相談・連携室）の利用も開始しました。高校を卒業し、19 歳になる現在は当法人の生活介護事業（ワークサポートなにわサテライト）を利用しています。

A さんの強み、弱みは以下の通りです。

強み	弱み
・一人で DVD などを見て一定時間過ごす ・1 度経験した事はよく覚えている ・「ごはん食べる」など二語文でのコミュニケーションがとれる ・簡単な文字と数字の理解	・他者に気持ちを伝えることが苦手 ・否定的な関わり方をされることが苦手 ・過去に経験した事がない事は見通しを立てにくい ・活動の切り替えに時間がかかる

●A さんが利用している
なにわの里の事業のイメージ図



【きっずサポートなにわでの様子】

きっずサポートなにわ（以下、「きっず」と称する）は、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所で、18 歳までの子どもを対象に個別の療育を行っています。A さんは 2012 年から 2020 年まで計 9 年間、隔週（2 回/月）で利用していました。

利用開始当初、ご家族は切り替えに時間がかかる・睡眠時間が短い・手の甲を噛む事などに困っていました。特に、家や学校などでじっとしていられないため「もう少し座って活動に取り組めるようになってほしい」という要望がありました。

そこで、まずイスに座って課題に取り組むところから支援を行いました。半年後にはイスに座って学習する姿勢が身に付き、活動の切り替えも以前と比べ良くなりました。また、絵や文字で予定を示したスケジュールを使用し、見通しを持てるようにしました。その他、コミュニケーションに関する支援も行いました。継続した支援を行う事で、安定して過ごすことができるようになっていきました。

【ワークサポートなにわサテライトでの実習】

支援学校の卒業が近づく中で、ご家族は卒業後の進路先として同法人の生活介護事業の利用を希望しました。作業の様子などを観察するため、2020 年 9 月にワークサポートなにわサテライト（以下、「サテライト」と称する）で 2 日間の実習を行いました。

実習前に、サテライトスタッフときっずスタッフとで打ち合わせを行い、これまでのきっずでの様子や支援内容、過ごし方などを共有し、A さんが受け入れやすいような環境作りをしました。

実習中、きっずの担当者といっしょに、集団の中での A さんの様子を観察し、細かい修正を行いました。同じ法人であることから、多くの情報を都度共有し、密にやり取りを行うことができました。同時期にきっずでは、サテライトへ移行することを想定して、課題の難易度を上げるなど過ごし方の練習をしました。

【サテライト利用開始】

2021 年 5 月からサテライトの利用が開始しました。当初は激しい自傷などがあり、活動の切り替えが難しい場面がありました。A さんに合わせて活動のタイミングや内容などを見直し、過ごしやすいよう環境調整に努めました。自傷がある時は、DVD が作動しなかったり、要求がうまく伝えることができない時など、理由があることもわかりました。

行動の理由をその都度考え、A さんにとって最善になるように努めました。自傷などのタイミングを記録したり、連絡ノートなどで家族と密にやり取りしたり、必要に応じてきっずスタッフとやり取りしたりすることで、支援に必要な情報を得て、日々の支援に活かす事ができました。

サテライト利用開始から約 5 か月経ち、当初と比べ落ち着いて過ごせる日が多くなりました。現在はガイドヘルパーやショートステイなど他事業所の利用も併用し、楽しみを持った生活を送っています。

【最後に】

生活の拠点が学校からサテライトとなり、A さんにとってはとても大きな変化であったと思います。私は、A さんとはサテライト利用開始時からの関わりとなりますが、学習する姿勢や他者との関わり方など、きっずで 9 年間積み重ねてきた支援を活かしながら、A さんにとってサテライトが居心地の良い生活の拠点となるよう努めていきたいです。

また、自宅でしか排便が出来ない、特定の日に調子が良くないなど、まだまだ課題があります。要因を考え、A さんに寄り添いながら、より良い方向になるようこれからも支援していきたいと思います。

歌を歌って踊ったり
壁に絵を描くマネをしたりして
楽しそうに過ごしています

ジムインこいけのなんでも日記

添い寝しかできなかったけれど

最近、鯨岡峻先生の著書を読んでいます。先生の提唱する概念の一つに「間主観性」というものがあります（むっずかしい話始まったで、と思った方、その気持ち分かります）。「間主観性」とは、目の前の方の気持ちや思いが私自身の「身体に伝わってくるようにして」分かる、ということを表すものです。働き始めて16年、福祉に関する価値や概念といった領域について、「学びたい」という気持ちを込めて勉強することをしてこなかったせいか、これが難しいのです（笑）。表面上は理解できても「こういうことだな」と腹にストンと落としていくのに、時間がかかります。でも、16年の経験は、理解を大いに助けてくれているとも感じています。

今から10年程前、早出勤務が終わって、そのあと書類仕事を終えて、20時くらいに車で帰宅していたときでした。携帯が鳴り、外環沿いの某ハンバーグ屋さんに車を停めさせてもらいました。「Aさんが調子悪くて現場では対応しきれません」という内容でした。できたら家に帰って休みたい、ふーっとため息をつきながら施設に戻りました。

とにかく一緒にお部屋に行き、ベッドに座りながら「Aさん一緒にゴロンしよう」と声をかけました。Aさんは私の隣に来て横になったのですが、興奮状態は続いており、私の胸をボンボンと叩くことが続きました。Aさんが調子を崩したとき、当時はこれといった対応がなく、私は腕枕をしながら添い寝をしてAさんの気持ちが治まるのを待つ、ということしかできませんでした。

しばらくすると、それまで硬く力が入っていたAさんの体からふっと力が抜けて、体全体を預けてくるような、そんな感覚が私の体に伝わってきました。あ、落ち着いてきたんだな、とりあえず良かった、でもこれからどうするかなぁ・・・そんなことを考えながらしばらく一緒に横になっていました。

当時はなかなかそう思えなかったけれど、Aさんが落ち着いていく感覚が「間主観的」に理解できて、ただ横に居ることができた、というのはとても大切なことだと今になって思います。10年前無力感を感じていた小池青年に「それって結構大事なことなんだよ」と言ってあげたい、そんな気持ちです。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2021年7月1日～9月30日　　（敬称略・順不同）

（法人の部）

アトリエらくだ　工和工業株式会社　株式会社加美塗装工業所　岩崎商店　きたむら内科

特別非営利活動法人けいき

（個人の部）

山下 孝子	首藤 浩二	車谷 二三夫	西田 和美	中島 恭子	杉本 武志	鈴木 曠二郎
前川 阿紀子	片岡 泰彦	川島 伸也	井形 正信	松田 恭一	高岸 恭子	松田 紀弘
松田 ちか子	中田 美津子	町野 隆	佐々木 久子	神田 佳子	田中 仁紀子	藤原 昌
合田 裕章	坂本 信晴	石井 雅憲	延田 京子	松尾 保隆	俵積田 和気子	田中 賢一
千原 昭二	多田 操	森 陽介	白根 勝雄	西田 芳雄	井村 晋	村松 克己
中塚 和恵	小島 純子	小畑 貴央	保田 信一	舟橋 一枝	馬場 幸枝	西原 周美
北森 英美	光田 一二三	川島 白鶴	渡邉 信邦	谷野 恵津子	田中 美希	濱田 由紀子
肥塚 泰子	森 克雄	井上 政二	石井 純代	白根 英樹	小野 雅司	山本 実加
忍穂 宙						

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

西嶋　光
（入所グループホーム
支援２係）

― 社会人２年目、１年半経って印象に残っていることはありますか？

お給料を頂いて働くということ自体が初めての経験で、また知り合いに福祉の仕事をしている方がいたわけでもないので、どのようにするのがいいのかわからず未体験のことばかりでした。

2年目に入って、少しずつ利用者さんのことがわかってきて、例えば調子を崩している利用者さんがいても理由がわかることもあるので、１年目の最初とは全然違うなと思います。

― １年半の中で「嬉しかったこと」はどんなことですか？

やっぱり利用者さんが笑ってくれている時が嬉しいなと思います。１年目は覚えることがたくさんでいっぱいいっぱいだったのですが、２年目に入って利用者さんの表情や仕草にも目が行くようになりました。

― 西嶋さんがこの仕事をするうえで大切にしていることは？

利用者さんに接するうえで、マニュアル通りにしないといけないときもあるのだとは思うのですが、やっぱりその場その場で利用者さんがどう思ってらっしゃるかを気にしながら接するようにしたいと思っています。自分の考えだけで「こうしたらいいんじゃないか」とせずに、「この利用者さんはこんなふうに思っているんじゃないか」「あの方はそう感じているんじゃないか」とそれぞれの利用者さんで思いは違うはずなので、それを大切にしたいと思っています。

第 104 号
2021 年 11 月 12 日発行
発行責任者　前田研介

社会福祉法人　なにわの里
〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202
E-mail　naniwa@naniwanosato.jp
HP http://naniwanosato.jp

Facebookでチェック

右の QR コードから
かんたんアクセス！